

## 熊本県救護施設協議会

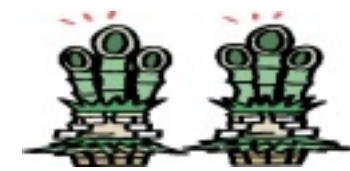
## 熊 救 協

<http://kumakyukyo.sakura.ne.jp>

ごあいさつ

## 熊救協の研修について

熊本県救護施設協議会会長 藤本和彦



明けましておめでとうございます。熊本地震に際しまして真和館、銀杏寮、野坂の浦荘に各方面から賜りました励ましの言葉や多大なるご支援に、心から御礼を申し上げます。今年は、私どもは勿論、熊本に取って本格的な復旧の年となります。変わらぬご指導・ご支援をお願い申し上げます。

さて、救護施設は様々な理由で、地域で生活できない方が入所されています。そのため、入所されてからも、大変手を焼かされる方も居られ、職員は、それらの方の処遇に戸惑ったり、困惑したり、大変な苦労をします。従いまして、職員からは、知識や教養を高める研修ではなく、現場の業務に即役立つ研修を強く求められることになります。

熊救協では、毎年2回の研修会を開催し、そのうちの一つは、グループ討議中心の研修会で、救護施設勤務歴の浅い方に、勤務歴の長い方を加え、業務に対する理解を深めて頂く研修であります。

今一つは、日常の処遇に即役立つ知識や技法を身に付けて頂くための研修です。ここ4～5年は精神障害に特化した研修とし、しかも、アルコール依存症の研修会では、一日中アルコール関連、統合失調症の研修会では一日中統合失調症というようにテーマを絞り、県精神保健福祉センターのご指導・ご支援の下、講師陣も厳選し、レベルの高い研修会を開催して参りました。

H28年度は、入所者とのコミュニケーションの取り方について悩んでいるという現場の切実な声に応えるために、クラフト（アルコール依存症に対する家族のコミュニケーション法）とアサーティブ（自分の要求や意見を相手の権利を侵害せずに誠実に率直に、対等に表現する技法）という最新のコミュニケーション技法の研修会を実施しました。

今後も研修委員会を中心に、現場の悩みに直接応えることが出来る専門性の高い研修会を企画して参りますので、関係者のご協力をお願い申し上げます。

## ～ 居宅訓練事業への取り組み～ 真和館編

真和館では平成25年7月15日から居宅生活訓練事業の取り組みを始めました。対象人数を2名に設定し、間取り1DKのアパートを2部屋借りて訓練しているところです。静かな住宅街にあり東側には阿蘇の山々を臨み、のびのびとした気分を味わうことができます。北側はタイミング良ければ飛行機の着陸寸前を見ることができ、異空間を体験することもあります。

これまでに6名の方が利用され、4名の方が無事に地域へ出られました。2名の方が現在訓練中ということになります。対象者さんにはそれぞれに問題や課題があり、それに応じて訓練内容や訓練期間が違うプログラムが設定されます。特に、アルコール依存症等の方については、自助グループとのつながりは重要になってきます。そこで、地域へ出られてからの事を想定し、居宅生活訓練中から自助グループへのつながりを確保するような内容となっております。例えば、アルコール依存症関係の自助グループは大きく断酒会とAAがあります。その人が希望されるグループに、そして地域に出られてからも継続してそのグループに参加ができるように、訓練中からお連れし、仲間づくりをしております。日中はアパートから真和館に通っていただき、真和館アルコール依存症回復プログラムを軸に学習をしていただいています。依存症でない訓練対象者さんは、紙貼り作業が中心の日中活動となります。調理ができない対象者さんもおられますが、地域に出られてから調理による火事やケガの心配を考えれば、無理に調理することはしない方がよいと考えられます。それよりも宅配食やお惣菜の利用を優先し、ちょっと一工夫するための栄養指導を組み入れるようにしています。

訓練期間1年間、最長でも2年間で訓練を完結させるには、訓練を受ける側、支援する側の双方とも、相当のエネルギーを使います。

## 【銀杏寮】 ～熊本地震を経験して～

昨年4月に発生した熊本地震。過去経験がない震度7を2回観測したと報道されました。5年前の東日本大震災は今でも鮮明に覚えています。私達が経験するまでは、まさか自分達が…との思いがあったのも事実でした。銀杏寮は約2週間にわたり水道、ガスが停止しました。一定量の備蓄はしていましたが、今回の震災を受け、改めて非常時の”備え”の必要性を感じました。飲料水以外のトイレや清拭等の生活水の確保に数日、市内を奔走しました。60名分の生活水確保は容易ではありません。そんな中、地震後、早々に支援物資等の対応をくださった県内外の救護施設がありました。渋滞の最中数時間かけて物資を届けて下さり、とても勇気づけられ有り難く感じました。これからも非常時の備蓄はもちろんですが、今回改めて、迅速に対応頂いた皆さんの“気持ち”を今後の”備え”にしたいと感じました。



## 【真和館】 ～☆☆真和館卓球バレーチーム国体出場☆☆～



真和館卓球バレーチームは、昨年の「2015紀の国わかやま大会」に続き、今年も「全国障害者スポーツ大会希望郷いわて大会」と2年連続で国体に出場しました。ベスト8に進み対戦したのは、国体や各大会で毎回優勝し、名実ともに日本一と言われている萩のひまわりチームです。接戦ではありましたが、惜しくも2対1で敗れてしまい駒を進めることはできませんでした。この日本一のチームの壁は厚く、1勝したというだけでも実に光栄なことで、その熱い戦いぶりは全国から注目され、参加した40チームの中から、ただ1チームだけ真和館が敢闘賞（フェアプレー賞）に選ばれました。猛練習の結果チームプレーも良くなり、得られた成果だと思います。真和館は熊本地震で被災しましたので、経費と職員の被災等を勘案し施設としては国体出場を見送るつもりでした。しかし、熊本県卓球バレー協会様をはじめ、九州、山口の各関係者様、周囲の方々の心強い声援もありましたので出場することになりました。ところで、卓球バレーは1974年（S49）「第5回近畿筋ジストロフィ症児交歓会スポーツ大会」から実施され、京都を中心に普及し、1981年（S56）国際障害者年を記念して「全京都身体障害者スポーツ大会 卓球大会の部」の一種目として団体戦に取り入れられ、徐々に全国へ広がっていったと聞いております。真和館では、平成23年7月4日に初めて館内で練習をしました。取り入れてみると入所者さんがとても生き生きしてこれ館内も明るくなりました。

## 【菊池園】 ～忘年会で1年の締めくくり～



現在、施設改築中のため、今年は忘年会を近隣のホテルで行いました。この日は昼食後にビンゴゲームを行い、温泉に入ったりカラオケをしたりと大変楽しい時間を皆で過ごすことができました。そして、ビンゴゲームの優勝者はなんと昨年と同じ人でした！！カラオケの場面では歌に併せて突然踊り始める人もいて、日頃の施設生活では見ることができない一面もありました。仮設での生活は不自由なことも多々ありますが、この日は気分転換にもなりました。



## 熊救協 2017 1月号 (No.29) 編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年は、熊本・大分地震をはじめ度重なる台風襲来、鳥取県中部地震等、自然災害の脅威を改めて認識させられる一年でした。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。防災に関する知識を十分持ち、防災対策の必要性を更に意識し、利用者の安全を確固たるものにしていかなければならないと思っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。 熊救協調査研究委員長 三宅 浩徳（天草園）

編集：熊本県救護施設協議会 事務局：〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村大字鳥子3072番地  
調査・研究委員会 真和館 TEL (096) 279-1121  
発行：熊本県救護施設協議会 FAX (096) 279-1122

## 熊救協研修委員会報告

### 第1回熊救協職員研修会

期日：平成28年7月14日（木）

場所：救護施設「千草寮」



今回の研修会は、平成28年3月に新施設工事を竣工された千草寮を会場に、救護施設職員の専門職として資質の向上を図ることを目的に開催しました。7施設より32名の参加があり、午前及び午後に分かれての職種別グループ討議では、指導員、介護職員（2グループ）、看護師、栄養士及び調理員に分かれて事前に提出された質疑事項に沿って討議を行いました。熊本地震を受けて自然災害における施設としての対応や居宅訓練事業など活発に意見交換ができました。

午前11時30分から新施設に生まれ変わった千草寮の概要の説明があり、午後からはグループ討議のあと千草寮の施設見学をさせていただきました。参加者の皆さんは、千草寮の職員さんに熱心に質問等されておられました。

### 第2回熊救協職員研修会（第7回熊救協・九救協合同研修会）

期日：平成28年10月27日（木）

場所：くまもと森都心プラザ6階A・B会議室



県外8施設より16名、県内7施設より35名、計51名の参加により救護施設職員を対象に「こころの病気（精神障害）に関する研修会」を開催しました。今回は、「利用者とのより良いコミュニケーションの取り方について」と題してコミュニケーションに特化した専門的な研修を行いました。

午前の研修では、熊本県精神保健福祉センター臨床心理士の増永郁理氏により、薬物、アルコール依存症家族のための支援ツールであるCRAFTを活用することにより、当事者(利用者)の治療につながる、問題行動が減る、家族が楽に暮らせるようになるなどの効果があることの講義がありました。

午後の研修では、アスク・ヒューマン・ケア ライフスキル・センター室長木村久子氏により、お互いを大切にするコミュニケーション・アサーティブについて話がありコミュニケーションパターンとして具体的な例として「ドッカン」「オロロ」「ネッチー」のタイプがあることや、誠実、対等、率直、自己責任の4つの柱や、自分や相手にもある権利として「12の権利」を分かりやすく講義していただきました。

また、相手にどう伝えるのかについてのポイントを5つ挙げて講義していただきました。

後半の講義では、デモンストレーション・ロールプレイを行い出席者同士が利用者や職員の立場で、ある場面を想定して会話を通してコミュニケーションする演習を行いました。出席者がそれぞれ利用者役、職員役となり真剣に時には笑ありでロールプレイの演習を行いコミュニケーションスキルアップを図りました。

救護施設では、コミュニケーションによる利用者との信頼関係の構築が必須であり、今後の業務に生かせる有意義な研修会でした。

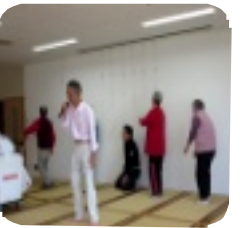
## 各施設トピックス

### 【千草寮】

### ～千草コンサート～



11月13日、慰問で歌謡ショーが行われました。20歳の時に「オラ東京さ行くだ～」と歌手を目指して上京し、猪俣公章の弟子をされていたという方に来寮頂き、トークを交え15曲程披露して頂きました。途中、入所者も飛び入り参加され、バックダンサーを務めたり一緒に歌ったりととても盛り上がり、最後には「アンコール！」の声があがり、全員で“上を向いて歩こう”を歌いました。別れ際「また来てね」と涙を浮かべる入所者もおられ、思い出に残るひとときとなりました。



### 【天草園】

### ～開園記念日～

去る12月8日、多目的ホールにて開園記念日昼食会を開催しました。天草園は、昭和43年12月10日に開園し、今年で48年を迎えました。これまでに428名の方が入所され、現在76名の方が生活をされていますので、既に352名の方が退所されたことになります。平成8年に老朽改築した園舎も20年が経過し、ここ数年は大規模な高額修繕が必要とされているような状況です。開園記念日昼食会は毎年12月10日前後に実施、今年は利用者74名と役職員併せて100名を超える方が参加、各テーブルを役職員と利用者の5名～6名で囲み、お刺身・お寿司・オードブル・サンドイッチ・赤飯・デザート等の普段食することが少ない御馳走を楽しんで頂きました。食事が落ち着いたところで余興を開始、利用者からのカラオケ、職員からは各職種より歌や踊りの出し物で盛り上がりました。職員が歌っている途中、普段はとても静かな利用者さんが、突然テーブルの花を抜いてステージに上がり、バラの花をプレゼントするサプライズも起きる等、利用者さんにたいへん喜んで頂き、とても楽しい開園記念日昼食会となりました。



### 【野坂の浦荘】

### ～秋の旅行に行ってきました～

野坂の浦荘では10月に日帰り（人吉梨狩り）と11月に県内1泊（荒尾・玉名方面）・県外1泊（福岡方面）の3コースで秋の旅行が行われました。



県内旅行1泊では、2015年に世界文化遺産に登録されました、荒尾市の万田抗を観光してきました。観光ガイドさんのお話を聞きながらゆっくり観光する事が出来て、懐かしと思う方もいれば、建物の迫力に圧倒される方もいて大満足な旅行となりました。日頃は写真に写るのを遠慮される方も笑顔でポーズをとり楽しまれていました。



### 【しらがね寮】

### ～しらがね寮ミニミニ運動会～



しらがね寮では、昨年から寮独自の取り組みとしてミニミニ運動会を開催しています。11月8日に第2回大会を実施し、開会式では、アナウンスや競技上の注意を利用者が主体となり行い、競技では、リレーや泣かせ玉、ホールインワン競争、玉入れ、パン食い競争などに分かれて参加し、最後に男女ペアでダンスを踊り、頑張った方に賞品が渡されました。小規模ながら、笑いありで、大盛況に終わりました。競技に参加した人、応援にがんばった人と全利用者が短い時間ではありましたが、とても楽しいひと時を過ごせたと思います。

